

集うことがネットワークを可視化した 得丸智子

「新しい形の TAE の集い (A NEW KIND OF TAE GATHERING)」である TAE シンポジウムが開催された。世界各地から TAE 実践者、TAE 教師が集ったシンポジウムは、成功だったと言ってよいだろう。最も大きな成果は、TAE が既にさまざまな地域で、さまざまな分野で、さまざまな目的で活用されていることが、明らかになったことである。個人の成長や気づき、教育への応用、環境との関わりへの応用など、多方面での TAE の活用が、実践者本人により詳細に語られた。それらの達成は私たちの予想を超えていた。多様なバリエーションが生まれていたが、フェルトセンスに照合すること、TAE ステップの全部あるいは一部を、直接的、間接的に取り入れている点において、どれもまさに TAE だった。集うことにより、ネットワークが形成されていることが可視化されたのである。

実は、私を含む日本のフォーカサーにとって「TAE シンポジウム」は既に馴染み深いイベントである。日本では 2012 年から、ほとんど毎年 TAE シンポジウムが開催されているからである。今年も 3 月に 100 人ほどがオンラインで集まった。しかしながら、日本を含むアジアからの TIFI の TAE シンポジウムへの参加は少なかった。これは課題といえるだろう。フォーカシングの応用である TAE は言語以前の感覚でつながり合うことを可能にするはずである。まずは、今年のシンポジウムで一步、踏み出したことを喜び、この歩みをさらに進めていきたい。